

大地震の恐怖 残された教訓

——助け合いの輪が防災の力へ——

2003年、震度6以上の大地震が
次々と6回も日本列島を襲った!

2003年9月
十勝沖地震

2003年7月
宮城県北部連続地震

その時あなたは自分の身を守れるか?
巨大地震に備えて対処法を徹底追及!



手話版あり



企画意図

地震列島・日本では、巨大地震がいつ、どこで起きても不思議ではないと言われています。もし大地震が起こったら、私たちは自分の身を守ることができるでしょうか。

2003年に入り震度6以上を記録した大地震は、すでに6回。撮影班は2003年7月の宮城県北部連続地震、9月の十勝沖地震発生直後現地入りし、災害地の惨状や被災者の生の声を取材。生々しい爪痕を伝え、大地震の恐ろしさを訴えます。直下型、海洋型の仕組みとは?、専門家の分析など様々な角度から、大地震にアプローチし、災害時に身を守る手段を具体的に説明します。

また20年近く自主防災組織を運営し、特に災害に弱い高齢者の防災対策に力を入れている地域、阪神淡路大震災以降、災害に強い街づくりに取り組む様々な団体などを紹介。これらの活動を通して、隣近所の助け合いが、災害時に人の命を救う最大の手段になることも訴えます。

視聴時間 26分

ビデオ価格60,000円

不二映画・映学社 作品

作品の内容

冒頭で、巨大地震直後の地割れ、家屋倒壊、交通事故、大規模火災など大災害のイメージ映像を次々とCGで重ねて――

震度6クラスの大地震の恐ろしさを印象づける。

◆仙台市にある熱心な自主防災クラブの紹介

仙台市若林区では、約25年前、宮城沖地震を体験した後、自主防災クラブが結成され、今も熱心に地震対策と取り組んでいる。主に主婦が中心となり、約3,000世帯の防災訓練や防災知識の啓発を行う。ところが、この地域でも年々高齢化が進み、一人暮らしのお年寄りが増えている。クラブでは災害弱者である高齢者をイザという時、敏速に救出するためには、隣近所の助け合いが重要と考え、70才以上の一人暮らしが一目で分かる防災マップを作成。隣近所5～6人で1グループとし、そのエリア内で高齢者を守る工夫をしている。常に訪問したり、災害時、まずは電話で安否確認するなど、きめ細かい心配りがある。

◆2003年7月、直下型の宮城県北部連続地震発生！

2003年7月、宮城県北部を震度6の直下型地震が1日に3度も襲った。被害にあった家屋は、約1万棟。負傷者は600人を超えた。陸地の地下で起きる直下型地震の仕組みをCG説明し、その被害の大きさと怖さを検証する。また、宮城県矢本町に住む直下型地震を体験したご夫婦を訪問。地震直後の家の中でありとあらゆる家具が転倒した写真を見せてもらいながら、恐怖の体験談を聞く。地震対策として、まず家具の固定がいかに大切かは、専門家も指摘している。

◆家具転倒防止のボランティアが生まれた

名古屋にあるボランティアでは、一人暮らしの高齢者宅を対象に近隣で人を募り、専門家のアドバイスを受けながら、家具の転倒防止作業を手伝う活動に取り組んでいる。活動のねらいは、高齢者宅の家具固定を手伝うことで、もし災害が起きた時、街の住民が自然と一人暮らしのお年寄りの安否を気にかけるようになることにもある。そして一日の大半を、自宅で過ごす高齢者にとって、普段いることの多い寝室と居間の家具を固定するだけでも、地震の際の安全性をかなり高めることになるのだ。

◆2003年9月、海洋型の十勝沖大地震、津波の恐怖！

宮城沖地震から2ヶ月後、今度は釧路沖を震源とする海洋型の大地震が発生。それに伴う津波が何度も十勝港を直撃した。漁港は大きな被害を被り、行方不明者も出た。ここでは、十勝港に設置された、定点カメラの映像を8倍速で再生。津波の恐ろしさを伝える。この大地震は、釧路から日高にかけての広い地域で震度6を記録。住民達は恐怖の体験を語る。海洋型の地震とは、津波とは、どういう仕組みで起きるのかをCGで説明する。

◆大地震で恐ろしいのは火災による二次災害

阪神淡路大震災では、神戸市だけでも、地震直後、53箇所から出

火、7,000棟以上の家屋が全焼した。断水と倒壊家屋による道路の寸断で消火活動は思うように出来なかった。ここでは、コンピューターによるシミュレーションで、木造住宅3000棟からなる、ある街を想定し、出火地点を設定。延焼していく様子を見る。もし初期消火に失敗したら、4～5時間で街全体が火の海となるのだ。専門家も「災害時、街は運命共同体。初期消火には隣近所の助け合いが大きな力になる」と指摘する。

◆防災の最大の力は、隣近所のつながり、助け合い

一方、住民達のバケツリレーにより、火災の延焼をくい止めた地区もある。街の人々にその時の様子を聞く。また、震源に最も近く、震度7を記録した北淡町でも、多くの人が倒壊家屋の下で生き埋めになったが、住民達の自発的救助で、その日の夕方には300名の行方不明者全員を救出することが出来た。その事は普段からの地域のつながりが、災害時にいかに大きな力となるかを物語っている。この教訓を活かし、各地では地域の人々の絆を強めるボランティアが活発になっている。その一つ、神戸長田区のコミュニティー、ふれあい喫茶を訪ね、話を聞く。

◆大地震への備えと対処策を詳しく解説

最後に大地震が起こったとき、個人では、地域ではどのような行動をとればいいのかを紹介。『非常用持ち出し袋』の中身などを具体的に紹介する。

今日は、仙台若林区の夜間防災訓練。隣近所で助け合い、高齢者を優先して避難所へ誘導している。その様子を捉えながら、災害時、住民の輪が防災の大きな力につながる、と強調して終わる。

■監修 東京大学大学院工学系 都市工学専攻
工学博士 小出 治教授

■指導 東京大学大学院工学系 都市工学専攻
工学博士 加藤孝明

■スタッフ 制作統括・監督…高木裕己
プロデューサー…篠原 修
脚 本……………加藤有芳/高木裕己
撮 影……………島林博士/山口哲広/浅井伸英
選 曲……………柏瀬紀代隆
CG制作……………林野和典/高橋誠哉
演出助手……………阿部伸太郎
制作デスク……………正者 章子
ナレーター……………中里 雅子

■スタジオ 編集スタジオ……………ビデオウォーク
録音スタジオ……………福島音響

■協 力 仙台若林区南小泉北部連合
仙台市若林消防署
特定非営利活動法人レスキューストックヤード
真野地区まちづくり推進会
北淡町震災記念公園

■映像提供 NHK/帯広シティーケーブル

■制作/著作 不二映画株式会社/株式会社映学社

●お問い合わせ、お買い上げは……